

奈良工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム R6年度 自己点検評価（応用基礎レベル）[内部評価]

評価日時：令和7年3月24日～26日

会議名称：臨時総務委員会

開催場所：オンライン

目的：令和6年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
1. プログラムの履修・修得状況	A	令和6年度入学生より開始したプログラムであり、1年次の情報リテラシーの履修率は100%、単位修得率も100%（対象外、退学等の学生を除く）である。それ以外の科目については、次年度以降段階的に履修率は増加する。
2. 学修成果	A	授業担当者及び教務委員会によって履修・単位修得率の状況は把握されている。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	全学生に対して授業アンケートを実施し、教務委員会においてアンケート結果の収集・分析を行っている。アンケートの分析結果は授業担当教員とも共有し、授業担当教員はその結果を踏まえて学生へのフィードバックを行い、継続的に授業改善を進め、学生の理解度の向上を目指している。
4. 学生アンケート等を通じた後輩等ほかの学生への推奨度	A	新入生オリエンテーション等を利用して入学生に周知する形をとっている。また、取組概要をホームページに掲載している。
5. 全学的な履修者数、履修率向上にむけた計画の達成・進捗状況	B	情報工学科は必修科目によるプログラム履修が可能であるのに対し、他の4学科（機械、電気、電子制御、物質化学）は選択科目を履修することによりプログラム修得が完了する。情報工学科以外の学生への周知方法については今後工夫が必要である。

S:審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A: 審査項目の観点通りの成果を達成した。

B:審査項目の観点通りの成果を達成に至っておらず、改善の余地がある

奈良工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム R6年度 自己点検評価（応用基礎レベル）[内部評価+外部意見（運営諮問会）]

評価日時：令和7年3月24～26日

会議名称：臨時総務委員会

開催場所：オンライン

目的：令和6年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	B	令和7年3月時点で修了生がいないため
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	A	令和6年12月3日開催の諮問会において、外部評価委員から意見を伺い、教育プログラムの内容に関して妥当であるとの判断がなされている。要望として、世の中の流れを的確につかんでこれからも有為な人材を輩出してほしい、といったものが寄せられた。
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	毎年、年度末期に、専門性の近い教員でグループFDを実施し授業資料・課題内容・試験内容等の点検や意見交換を行っている。
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	A	毎年、年度末期に、専門性の近い教員でグループFDを実施し授業資料・課題内容・試験内容等の点検や意見交換を行っている。

S:審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A: 審査項目の観点通りの成果を達成した。

B:審査項目の観点通りの成果を達成に至っておらず、改善の余地がある